



# 上下水道だより

2026  
事業概要特集号

令和8年2月発行  
佐賀市上下水道局  
佐賀市若宮三丁目6番60号  
TEL(0952)33-1330  
FAX(0952)33-1315



特集

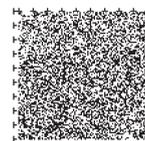
## 水道・下水道・工業用水道 各事業の概要をお知らせします

佐賀市では、これまで上下水道事業の目指すべき姿と、それを実現するための方向性を示した「佐賀市上下水道ビジョン」を策定し、計画的に施策を推進してきました。

このたび、50年先の将来を見据えた上で、令和7年度から8年間を計画期間とする新たな「佐賀市上下水道ビジョン」を策定しました。

今年度は計画の初年度となりますので、佐賀市の水道・下水道・工業用水道の各事業と、今後の事業計画の指針となる「佐賀市上下水道ビジョン」の概要についてお知らせします。

Uni-Voice



▲Uni-Voiceアプリを使うと  
音声で聞くことができます

## 水道事業のあゆみ

佐賀市の水道は、さく井(せい)式水道として大正5年に給水を開始しました。その後、水源を河川水に求め、多布施川の両岸に神野浄水場・神野第2浄水場を整備し、また、平成4年に佐賀東部水道企業団からの受水を開始しました。平成17年に旧佐賀市・旧諸富町・旧大和町の水道事業を、平成27年度末に富士町と大和町の簡易水道事業等を統合しました。令和2年には久保田町を本市の給水区域とする事業認可の変更を行いました。

※ 川副地区・東与賀地区は佐賀東部水道企業団の給水区域です。三瀬地区に給水区域はありません。



## 水道事業を取り巻く状況

### ① 頻発する自然災害

全国で自然災害が頻発しており、令和6年能登半島地震では、水道施設が大きな被害を受けました。佐賀市においても、令和元年8月豪雨により送水管が損壊し、一部の地区で断水が発生しており、今後も自然災害によって水道施設が被害を受ける可能性があります。



▲令和元年8月豪雨  
金立送水管損壊



▲平成28年熊本地震 応急給水の様子

### ② 施設の老朽化

主要施設である神野浄水場は、稼働から57年が経過し老朽化が進行しています。今後の人口減少に伴う使用水量の減少を考慮した施設の更新を検討する必要があります。



▲昭和43年 稼働時



▲令和8年 現在

### ③ 人口減少

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計に基づき試算した「給水人口の推移」では、人口減少に伴い給水人口と使用水量が減少していく見込みです。

#### <給水人口>

	令和6年度	令和15年度	令和25年度	令和35年度
給水人口	193,948人	186,363人	172,562人	156,630人
令和6年度比	-	△3.9%	△11.0%	△19.2%

#### <使用水量>

	令和6年度	令和15年度	令和25年度	令和35年度
使用水量	19,978 千m <sup>3</sup>	17,876 千m <sup>3</sup>	16,406 千m <sup>3</sup>	14,789 千m <sup>3</sup>
令和6年度比	-	△10.5%	△17.9%	△26.0%

## 水道事業の主な取組



### ① 管路耐震化30年プラン

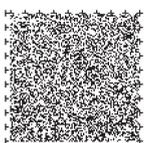
災害時の活動拠点となる災害対策本部や拠点病院、避難所などの重要施設に給水する管路を“重要管路”と位置付け、30年以内に優先して耐震化しています。

### ② 老朽管70年プラン

水道管の種類ごとに定められた耐用年数ではなく、実際に利用できる実耐用年数で70年以内に更新を進め、更新時期のサイクル化を図っています。

### ③ 浄水施設の大規模更新の検討

将来にわたり水道水を安定供給するため、老朽化が進んでいる浄水施設の統廃合やダウンサイジングを含めて、浄水施設の再構築の検討を進めています。神野浄水場の更新は、令和16年の稼働を目指しています。





# 下水道事業

## 下水道事業のあゆみ

佐賀市の下水道は、昭和53年に供用を開始し、都市化の進展や市町村合併に合わせて整備拡張を続け、平成30年に計画的な整備事業を完了しました。現在は、管路や処理施設の維持管理を行いながら、施設の老朽化対策や耐震化など、市民のみなさまの安全・安心のための事業を推進しています。



下水道マスコットキャラクター「スイスイ」

## 下水道事業を取り巻く状況

【令和6年能登半島地震による下水道施設被害の様子】

### ① 頻発する自然災害

全国で自然災害が頻発しており、令和6年能登半島地震では、污水处理施設や管路など多くの施設が被害を受けました。佐賀市においても、自然災害は下水道の安定的なサービス供給に大きな影響を及ぼしかねません。



▲マンホールの浮上



▲マンホールと管路の浮上

### ② 施設の老朽化

主要施設である下水浄化センターは、稼働から47年が経過し老朽化が進行しています。管路は経年による老朽化だけではなく、汚水から発生する硫化水素による腐食も劣化の原因となっています。



▲下水浄化センター



▲腐食した下水道管内部

### ③ 人口減少

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計に基づき試算した「水洗化人口の推移」では、人口減少に伴い水洗化人口と使用水量が減少する見込みです。

<水洗化人口> (浄化槽水洗化人口を除く)

	令和6年度	令和15年度	令和25年度	令和35年度
水洗化人口	179,916人	171,299人	157,137人	141,367人
令和6年度比	-	△4.8%	△12.7%	△21.4%

<使用水量>

	令和6年度	令和15年度	令和25年度	令和35年度
使用水量	18,732 千㎡	17,795 千㎡	16,248 千㎡	14,551 千㎡
令和6年度比	-	△5.0%	△13.3%	△22.3%

## 下水道事業の主な取組

### ① 計画的な老朽化対策(ストックマネジメント計画)

計画的な点検・調査に基づいた修繕・改築を行うことにより、施設の延命化や事業費の平準化を図っています。

### ② 総合地震対策

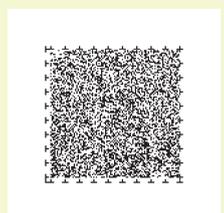
大きな地震が起きても最低限の流下機能を確保できるよう、施設の耐震化を進めています。下水道管の更生、マンホールの浮上防止、施設の壁の増し打ちなどの対策工事を進めています。

### ③ 圧送管の強靱化

ポンプ場から圧力をかけて汚水を流す「長距離圧送管」の複線化(二条化)に取り組んでいます。管路の破損時に迂回・代替できる体制を構築することで、流下機能が低下しないように対策工事を進めています。

### ④ 浸水軽減対策

「排水対策基本計画」に基づき、雨水ポンプ施設などの整備を実施し、大雨による浸水の軽減を図っています。





# 工業用水道事業

## 工業用水道事業のあゆみ

佐賀市の工業用水道は、「富士町南部工場団地」の誘致企業に工業用水道を供給するため、昭和60年に開始しました。



▲工業用水道配水池

## 使用水量・収入の見込み

契約水量制による料金体制のため、使用水量は安定的に推移しており、料金収入は今後も安定的に推移すると見込まれます。

## 工業用水道事業の主な取組

施設の稼働から長期間が経過していることから、設備の点検・整備に努め、施設の延命化を基本としながら計画的な更新工事に取り組んでいます。

## 佐賀市上下水道ビジョンの概要



### 【策定の趣旨】

上下水道事業を取り巻く課題や状況の変化を的確にとらえ、将来にわたり佐賀市の上下水道事業を次世代へつないでいくため、長期的視点に立ち、収支のバランスを取りながら施策を確実に進めていくことが必要です。このため、目指すべき将来像や重点的に行う施策を定めた**佐賀市上下水道ビジョン**を策定しました。



### 【計画期間】

令和7(2025)年度から令和14(2032)年度までの**8年間**

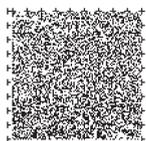
### 【将来像と基本方針】

目指していく**将来像(基本理念)**と、これを実現するための**4つの基本方針**を設定し、各事業を展開していきます。

<将来像(基本理念)> 暮らしを支える安全安心な上下水道

△  
基本  
方針  
▽

- 安全** 安全な水の供給と適切な汚水・雨水の処理に努めます
- 強靱** 災害に強い上下水道の整備に努めます
- 循環** 環境負荷の低減と資源の循環利用に努めます
- 持続** お客様の声を聴きながら満足度の向上と経営基盤の安定化に努めます



詳しくは佐賀市上下水道局のホームページをご覧ください。

